

日本の山を知るための10冊



- ① 大森久雄『山の本 歳時記』ナカニシヤ出版、2008年
- ② 米倉久邦『日本の森林伝』ヤマケイ新書、2015年
- ③ 小泉武栄『日本の山と高山植物』平凡社新書、2009年
- ④ 山と溪谷社編『日本の山はすごい!』ヤマケイ新書、2015年
- ⑤ 養父志乃夫『里地里山文化論—循環型社会の基層と形成』上、下 農村文化協会、2009年
- ⑥ 鈴木正崇『山岳信仰』中央公論新社、中公新書、2015年
- ⑦ 宮家準『霊山と日本人』講談社学術文庫、2016年
- ⑧ 藤岡煥太郎『山はどうしてできるのか』講談社ブルーバックス、2012年
- ⑨ 武内正、石丸哲也『日本の山を数えてみた』ヤマケイ新書、2015年
- ⑩ 布川欣一『明解 日本登山史』ヤマケイ新書、2015年

全国山の日協議会とは

国民の祝日「山の日」の施行を機に

2016年4月からスタートした一般財団法人です。「山の日」の意義を広く国民に知ってもらい、経済、教育、安全、環境、健康及び福祉の向上に寄与することを目的にしています。毎年8月11日には、国民の祝日「山の日」の記念全国大会を開催するほか、子どもたちや青少年の健全な育成のための公益事業を行うことにしています。地方自治体や法人、企業などの団体会員、それに個人会員で構成され、日本山岳会が主要なメンバーのひとつ。役員、顧問には著名な政治家や企業人、有識者が名を連ねています。前身は2013年、任意団体として発足した全国「山の日」制定協議会です。

<http://www.yamanohi.net/>

日本山岳会からのアピール

国民の祝日「山の日」

そこが知りたい 知ってほしい

日本は「山の国」です。まわりを海に囲まれ、国土のおよそ7割が山地という「山の国」です。この私たちの国に、ことしから国民の祝日「山の日」ができました。8月11日は《山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日》です。古くから日本人は山に畏敬の念を抱き、森林の恵みに感謝しながら生きてきました。祝日「山の日」は国民のみんながふるさとの山を想い、《山と向き合ういちにち》です。かけがえないわが国の自然を守り、次の世代に引き継ぐことを銘記する日です。

北は北海道から九州の南のはずれまで 2000 キロに及ぶ列島の山々は、世界でも類がないほど四季の変化に富んでいます。しかし、自然の恩恵を受けていると同時に列島とその周辺は、地震、噴火などさまざまな脅威を抱えた災害列島です。また、目に見えないところで自然破壊が進んでいます。私たちは日本という国土をもっと身近に感じ、もっと知らなければなりません。

日本山岳会の提唱でスタートした「山の日」制定の経緯を振り返り、これを意義ある祝日とするため、皆さんと一緒に「山」と「山の日」のことを考えたいと思います。

日本山岳会について

<http://www.jac.or.jp/>

いまから110年前、わが国で初めてつくられた山岳会です。会員数は5100人。山登りで結ばれた会員のひとりひとりがクラブライフを楽しむ、親睦を図るとともに、自然保護、文化活動などを幅広くおこなっています。2012年から公益社団法人になり、登山を通じて体育、文化及び自然愛護の精神の高揚をはかることを目的として活動しています。2009年、国民の祝日「山の日」制定を呼びかけ、他の山岳団体といっしょになって実現させたのも、この目的に沿ったものです。全国に33の支部があり、地域に密着した活動を展開しています。



2009年、国民の祝日「山の日」制定を呼びかけ、他の山岳団体といっしょになって実現させたのも、この目的に沿ったものです。全国に33の支部があり、地域に密着した活動を展開しています。

